

# 早

稲田大学では、学部と大学院における理工系の教育を担う理工学術院において、平成二十二年度からすべての教育を英語で実施するプログラムである国際コースを導入しました。このプログラムは、平成三十二年を目処に留学生受け入れ数三〇万人を目指す「グローバル30（G30）」の枠組みでスタートしたものです。文部科学省のホームページによると、G30は留学生に魅力的な環境を提供し、留学生と切磋琢磨する環境のなかで国際的に活躍できる人材の養成を図るために、海外の学生がわが国に留学しやすい環境を提供することを目的としています。

このために、学部、大学院の土木教育で実施される構造物学、土質力学、水理学などの授業科目、関連する実験、演習科目などすべて英語で提供されています。国際コースのスタート当初は、これらの専門科目を英語で提供するにあたって、授業を担当する講師の確保が困難ではないかと危惧されました。しかしながら、土木分野ならではのこころとこころと思いますが、海外での現場経験を有するゼネコンシニアの皆さん、留学経験などをお持ちの研究所勤務の方などの強力なサポートをいただき講師の確保ができました。

平成二十二年度に三名でスタートした学部国際コースの入学者は、徐々に増加し平成二十七年、二十八年には二年続けて一三名の入学

## 各 人 各 説

# 英語で土木を学ぶこと

早稲田大学理工学術院 教授

**赤木寛一**

Hirokazu Akagi



者を迎えることができ、理工他分野と比較して高い水準を達成しています。学生の出身国は、中国、台湾、ネパール、マレーシア、タイ、インドネシアなど東南アジアを主体にして多彩ですが、インターナショナルスクール出身の日本人も毎年複数名います。筆者は、学部、大学院の土質力学の授業の一部を担当していますが、日本語で学んだ土質力学に加えて、自らが学生時代に海外文献を渉猟探索して英語で学んだ知識を統合して、英語で授業を行うことで結果的に従来と異なる新しい学問体系を学生たちに提供できていると自負しています。

早稲田大学理工学術院では、これまでの国際コースプログラムを抜本的に強化充実させて、平成三十年度より学部英語学位プログラムに改組する予定です。新プログラムでは、四月入学および九月入学双方で学生を受け入れます。四月入学では主に日本国内からの海外雄飛の高い志をもった進学者を、九月入学は従来どおり海外からの進学者を想定しています。以上述べた留学生の受け入れ、高度教育の仕組みは、出口に当たる高度に養成された人材の雇用機会の充実によって完成するものと言えます。現在までの卒業生の進路は、国内外の大学院進学が主体でしたが、建設分野の民間企業に進む学生も出てきました。この部分については、日建連会員の皆様のご協力が不可欠であります。強力なご支援をお願いして、拙稿を閉じることとします。